４１ 価値システム専攻 学習課程

価値システム専攻（VALDES, Department of Value & Decision Science）は、1996 年に文理融合の実践的な研究教育を行うことを目的に創設された先駆的な大学院専攻である。グローバル化する 21 世紀の社会問題の解決には、価値判断と意思決定の両面に卓越した能力をもつリーダーが必要である。価値システム専攻は、そのような新しいタイプのリーダーの養成をめざしてきた。その後の多年にわたる研究教育の経験に基づき、他の文理融合・学際的研究を標榜する大学院とは一線を画したカリキュラムを提供している。

【修士課程】

人材養成の目的

価値システム専攻は、「知の融合」・「知の創造」・「知の実践」を理念としている。すなわち、専門的な学問領域の枠を超えて知を融合し、そこから新しい知を創造すること、そして得られた知を実践に役立てることである。その実現のために、本課程では、哲学（自然言語を操る能力）と数学（形式言語を操る能力）の体系的で徹底した訓練を通じて、複雑で困難な課題に対して高度な価値判断と速やかな意思決定を下すことのできる、新しいタイプのリーダーの養成を目的としている。

学習目標

本課程では、上記の目的のために、次のような能力を修得することをめざす。

- 課題に建設的に取り組むことができる積極性
- 固定観念から脱却できる柔軟性
- 現実状況の変化に追随するだけでなく、先を見越して行動できる臨機応変さ
- 自分とは異なるバックグラウンドを持つ人とも適切にコミュニケーションでき、健全な人間関係を構築できる能力
- リーダーとしての高度な価値判断と速やかな意思決定の能力

学習内容

本課程では、上記の能力を養うため、次のような内容に沿って学習する。

A) 知の体系を学ぶ ～講義科目～
専門的な学習をじっくり行うために、広く文系と理系にわたる大学院講義科目が開講されている。また、価値判断と意思決定の意義を学習するために、価値システム学に関する科目が開講されてる。

B) 知の幅を広げる ～特別演習～
他者の考えをよりよく理解できるよう、自分の専門以外の分野の基礎的知識を広く身につける。個別のテーマを学習するための短期セミナーが多数開講されるので、文系出身者は数理系の科目を、理系出身者は文系の科目をというように、自分に欠けている部分を補うことができる。

C) 知の交流を図る ～ディスカッションプログラム～
自らの考えを専門用語に頼らずに他者に伝えることができるだけのコミュニケーション能力を養う。大学院生全員が参加する場での自分の研究に関する個別発表や、グループ対抗形式のディベート、少人数でのディスカッション、グループプレゼンテーションなどを通じて、コミュニケーションのためのさまざまな技術を磨く。

D) 知の見取図を得る ～大学院教養・共通科目～
専門分野と他分野を総合した俯瞰的理解を深める。あわせて、コミュニケーション・スキルを高め、情報発信力を習得する。

E) 知を創造する ～特別教育研究コース～
「サービス科学」、「ディジタル人文工学」、「合意形成学」などに関する特別教育研究コースを通じて、新たな知の体系を創造・発信する。この3つのコースは、協力して、分野横断研究の最先端を紹介する科目を開講している。

F) グローバル社会をリードする ～国際化の推進～
英語による講義科目の履修と、海外留学機会の利用を通じてグローバル社会のリーダーとしての能力を修得する。

G) 知を発信する ～修士論文研究～
講義・演習等で修得した知識を土台として、修士論文研究の作成を通じて研究を深める。学術の世界に広く成果を発信することをめざす。

修了要件

本課程を修了するためには、次の要件を満たさなければならない。

1．30 単位以上を大学院授業科目から取得していること

2. 本専攻で指定された授業科目において、次の条件を満たすこと
・講究科目を 8 単位取得していること
・指定する必修科目と選択必修科目を含めた研究関連科目を 10 単位以上取得していること
・専攻専門科目を 4 単位以上取得すること、ただし、異なる2つの学期から各 2 単位以上取得すること
・大学院教養・共通科目群から 2 単位以上取得していること
3. 必要な研究指導を受ける
4. 修士論文の審査と最終試験に合格すること、ただし、次の条件を満たすこと。
・中間発表について、要旨を提出し、口頭発表を行う。
・修士論文について、論文の提出を行い、口頭発表を行う。

授業科目

表1に本専攻における授業科目分類と修了に必要な単位数を示す。必要単位数は科目分類ごと、また科目群ごとに指定され、また対応科目欄には科目選択にあたっての注記がある。右端の欄には科目と関連する学習内容を示す。学習申告にあたっては、科目と学習内容の関係を十分理解し、意識すること。

表2は本専攻の修士課程における研究科目群の授業科目を示す。

表3は、本専攻が指定する専攻科目群を示し、「専攻専門科目」と「他専門科目」を示している。

表4は本専攻が指定する大学院教養・共通科目群を示す。

表1　価値システム専攻授業科目分類および修了に必要な単位数

授業科目	単位数	対応科目	学習内容との関連
研究科目群	18 単位以上		
講究科目	8 単位	表2の講究科目	G
研究関連科目	10 単位以上	表2の研究関連科目より選択	B, C, D
専門科目群	4 単位以上		
専攻専門科目	4 単位以上	表3の専攻専門科目より選択（注 1）	A, E, F
他専門科目		表3の他専門科目より選択	A, E, F
大学院教養・共通科目群	2 単位以上		
専攻指定科目 ・国際ネットワーク形成演習 第一～第二 ・国際発表実践演習 第一～第二 ・Effective Presentations in English （社会理工学インターナショナル・セミナー） ・価値システム・インターンシップ 第一～第二 ・災害ソリューション実践 大学院国際コミュニケーション科目 大学院総合科目 大学院広域科目 大学院文明科目 大学院キャリア科目 大学院留学生科目	2 単位以上	・左記分類科目のいずれかから選択（表4を参照） ・大学院留学生科目は、外国人留学生のみ履修可	E, F
総単位数	30 単位以上	上記科目群及びその他の大学院授業科目から履修	

（注 1）　異なる 2 つの学期から各 2 単位以上履修しなければならない

（注 2）　※印を付された専攻専門科目の授業科目の単位を振替えた場合、専攻専門科目の単位は認められないので留意すること。

表2 価値システム専攻研究科目群

分類	申告番号	区分	授業科目	単位数	学期	学習内容	備考
講究科目	66701	◎	価値システム講究第一	0-2-0	前	G	修士課程(1)
	66702	◎	価値システム講究第二	0-2-0	後	G	修士課程(1)
	66703	◎	価値システム講究第三	0-2-0	前	G	修士課程(2)
	66704	◎	価値システム講究第四	0-2-0	後	G	修士課程(2)
研究関連科目	66033	◎	価値システム学入門	2-0-0	前	A	必修
	66711	▽国	価値システム討議・実験第一	0-1-1	前	C	修士課程(1)
	66712	▽国	価値システム討議・実験第二	0-1-1	後	C	修士課程(1)
	66713	▽国	価値システム討議・実験第三	0-1-1	前	C	修士課程(2)
	66714	▽国	価値システム討議・実験第四	0-1-1	後	C	修士課程(2)
	66721	△	価値システム特別演習第一	0-1-0	前	B	修士課程(1)
	66722	△	価値システム特別演習第二	0-1-0	後	B	修士課程(1)
	66723	△	価値システム特別演習第三	0-1-0	前	B	修士課程(2)
	66724	△	価値システム特別演習第四	0-1-0	後	B	修士課程(2)

表3 価値システム専攻専門科目群

分類	申告番号	区分	授業科目	単位数	学期	学習内容	備考
専攻専門科目	66001	□	社会的合意形成の理論と技術	2-0-0	前	A	
	66002	国	Advances in Affective Cognitive Science	2-0-0	後	A	
	66060		感性認知科学	2-0-0	後	A	
	66041		ディジタル人文工学	2-0-0	前	A	
	66078		美学	2-0-0	後	A	
	66005		比較価値論	2-0-0	後	A	
	66007	□	社会システム論	2-0-0	前	A、E	
	66070		未来洞察ワークショップ	1-1-0	前	E	
	66063		組織行動論	2-0-0	後	A	平成 25 年度休講
	66031		多文化共生社会論	2-0-0	前	A	
	66009	□	社会シミュレーション	2-0-0	前	A,E	
	66011	□	共生と紛争のシステム科学	2-0-0	前	A,E	
	66042		価値創造社会システム科学の展開	1-0-0	後	A,E	平成 25 年度休講
	66058		サービス科学基礎論	2-0-0	前	A,E	
	66069		ソリューション科学実践	1-1-0	後	E	
	66074		価値創造の最前線	2-0-0	前	A	

	66059		コンテンツサービス創出論	2-0-0	後	A.E	
	66046	国	A Comparative Study of Modern Japanese Culture	2-0-0	後	A	英語開講
	66068		社会的ジレンマの研究	2-0-0	後	A	平成 25 年度休講
	66073		現代政治分析	2-0-0	後	A	
	66014	□国	Global Environmental Governance	2-0-0	前	A,E	英語開講
	66037		企業経営と情報	2-0-0	前	A,E	
	66072		日本経済論	2-0-0	後	A	
	66017		地方財政論	2-0-0	後	A	
	66077		日本経済の統計・モデル・政策論	2-0-0	後	A	
	66019		民事紛争処理と手続法	2-0-0	前	A,E	偶数年開講
	66040		情報マネジメント法学	2-0-0	前	A,E	奇数年開講
	66030		Social Systems Modeling	2-0-0	後	A,E	英語開講
	66061		日中比較芸術論	2-0-0	前	A	
	66062		近代日中文人画論	2-0-0	後	A	平成 25 年度休講
	66026		比較文化史概論	2-0-0	後	A	
	66027		日中近代文化交渉論	2-0-0	後	A	
	66050		公共管理特論	2-0-0	前	A	(清華大開講)
	66064	国	The Philosophy and Practice of Collaborative Deliberation	2-0-0	後	A	英語開講
	66066	国	International Management	2-0-0	前	A	英語開講
	66065	国	Values in Comparative Culture	2-0-0	後	A	英語開講
	66067	国	Spechial Lecture on Value, Decision and Culture Ⅳ	2-0-0	前	A	平成 25 年度休講
	66075	#	価値システム異分野特定課題研究スキル A	0-2-0	前	A	他)環エネ院
	66076	#	価値システム異分野特定課題研究スキル B	0-2-0	後	A	他)環エネ院
	28013	□	Scientific Writing	1-1-0	前	A	他)環エネ院(個別指定対応)
	99339	□	コンセプト・デザイニング	1-1-0	前	A	他)大学院広域・環エネ院(個別指定対応)
	67078	□	システム理論と OR	2-0-0	前	A	他)経営工学専攻・環エネ院(個別指定対応)
	67060	□	横断型分野協同プラクティス	0-0-2	後	A	他)経営工学専攻・環エネ院(個別指定対応)
他専門科目	66052	▼	基礎数学演習	0-2-0	前	E	
	66051	▼	コミュニケーション演習	0-2-0	前	E	
	66053	▼	紛争処理演習	0-2-0	前	E	平成 25 年度休講
			上記の他専門科目に加えて、他専攻及び各教育院の専門科				

			目群の授業科目(自専攻の専攻専門科目を除く)				

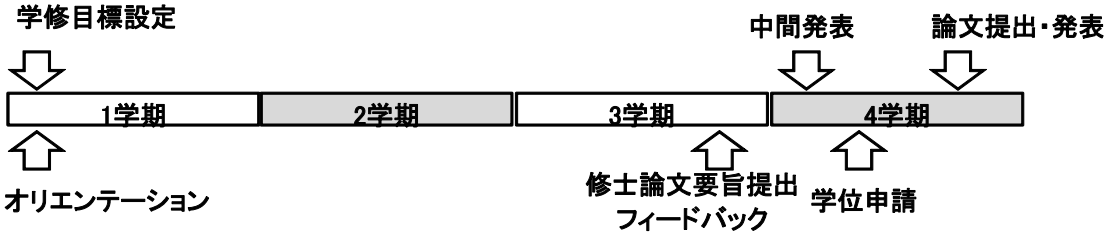
（注） 1)◎を付してある授業科目は、必ず履修しておかなければならない授業科目で、備考欄の(1)、(2)などは履修年次を示す。
2)▽を付してある授業科目は、選択必修の授業科目である。3科目以上の履修が必要である。
3)△を付してある授業科目は、選択必修の授業科目である。2 科目以上の履修が必要である。
4)「国」を付してある授業科目は、国際大学院プログラムに対応する科目である。
5)□を付してある授業科目は、リーディング大学院「環境エネルギー協創教育院」プログラムに対応する科目を表す。
6)＃を付してある授業科目は、リーディング大学院「環境エネルギー協創教育院」に所属する他専攻の学生のみ、環境エネルギー協創教育院の他専門科目として履修することができる。
7) ▼を付してある授業科目は、「社会的サービス価値のデザイン・イノベーター養成プログラム特別教育研究コース」及び「合意形成学特別教育研究コース」及び「ディジタル人文工学特別教育研究コース」の学生のみが履修できる。（価値システム専攻の学生は、特別演習として履修可能。）
8) 備考中の環エネ院(個別指定対応)の授業科目は、リーディング大学院「環境エネルギー協創教育院」に所属する学生から専攻専門科目とみなすよう申請し、受理された場合には専攻専門科目として扱う科目である。

表4 価値システム専攻大学院教養・共通科目群

分類・申告番号・授業科目			単位数	学期	学習内容	備考
大学院国際コミュニケーション科目					DF	・左記各研究科共通科目及び専攻指定科目より選択 ・大学院留学生科目は，外国人留学生に限り履修可能とする。
大学院総合科目					D	
大学院広域科目					D	
大学院文明科目					D	
大学院キャリア科目					D	
大学院留学生科目					D, F	
専攻指定科目	66054	国際ネットワーク形成演習 第一	0-2-0	前	D, E, F	
	66055	国際ネットワーク形成演習 第二	0-2-0	後	D, E, F	
	66056	国際発表実践演習 第一	0-2-0	前	D, E, F	
	66057	国際発表実践演習 第二	0-2-0	後	D, E, F	
	66045	Effective Presentations in English（社会理工学インターナショナル・セミナー）	1-1-0	前	D, F	
	66043	価値システム・インターンシップ 第一	0-2-0	前	D	
	66044	価値システム・インターンシップ 第二	0-2-0	後	D	
	66071	災害ソリューション実践	0-2-0	前	D	

修士論文研究

修士論文研究では、一連の研究プロセスを体験し，問題設定能力，問題解決力やコミュニケーション能力の向上を目指す。そのための修士論文研究の流れを付図1に示す。修士学位の取得については、3学期に実施する修士論文要旨の提出から、4 学期の中間発表を経て、論文提出・発表にいたる。



付図1　価値システム専攻修士課程における修士論文研究の流れ

【博士後期課程】

人材養成の目的

価値システム専攻は、「知の融合」・「知の創造」・「知の実践」を理念としています。すなわち、専門的な学問領域の枠を超えて知を融合し、そこから新しい知を創造すること、そして得られた知を実践に役立てることです。その実現のために、価値システム専攻は、哲学（自然言語を操る能力）と数学（形式言語を操る能力）の体系的で徹底した訓練を通じて、複雑で困難な課題に対して高度な価値判断と速やかな意思決定を下すことのできる、新しいタイプのリーダーを養成することを目的としている。

➢ 輩出する人材像

価値システム専攻博士後期課程では、「知の融合」・「知の創造」・「知の実践」という理念を体現し、価値判断と意思決定の専門家・研究者として社会に貢献する人材を輩出することを目標としている。

学習目標

価値システム専攻の学生は、次のような能力を修得することをめざす。

- 課題に建設的に取り組むことができる積極性
- 固定観念から脱却できる柔軟性
- 現実状況の変化に追随するだけでなく、先を見越して行動できる臨機応変さ
- 自分とは異なるバックグラウンドを持つ人とも適切にコミュニケーションでき、健全な人間関係を構築できる能力
- 価値判断と意思決定の専門家・研究者としての能力

学習内容

価値システム専攻では、上記の能力を養うため、次のような特徴を持つ教育を実施している。

A）講究科目の履修を通じて、国際水準の高度な研究成果を取りまとめるスキルを修得する。

修了要件

【博士課程】を修了するためには、次の要件を満たさなければならない。ただし、早期修了の制度を利用する場合はこの限りではない。

- 大学院に（修士課程を含め）5 年以上在学
- （修士課程で取得した単位を含め）30 単位以上取得
  - ➢「価値システム講究」（各 2 単位、全 12 単位）の 12 単位を取得
- 必要な研究指導を受ける
- 博士論文の審査と最終試験に合格：ただし次の条件を満たす必要がある。
  - ➢ 論文提出のための要件は、学術雑誌等に審査付論文を 2 編以上掲載することとする。
  - ➢ 論文提出を行い、博士論文発表会開催の許可を得る。
  - ➢ 博士論文発表会で発表を行う。

表 5　価値システム専攻博士後期課程研究科目群

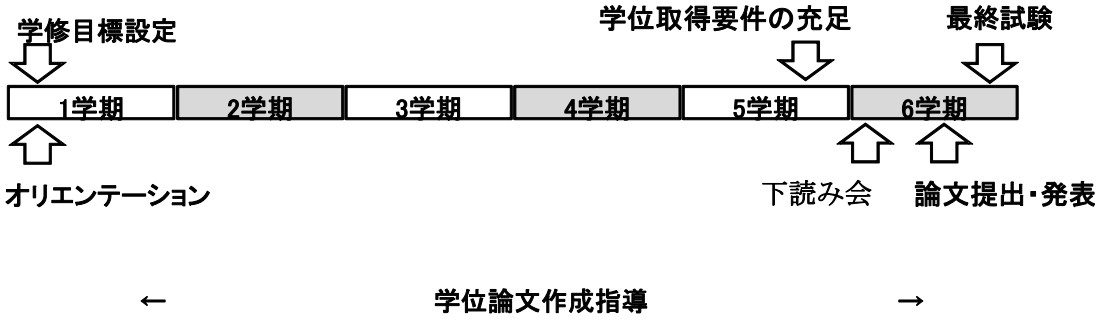
分類	申告番号	区分	授　業　科　目	単位数	学期	学習内容	備　　考
科　　究	66801	◎	価値システム講究第五	0-2-0	前	A	博士後期課程(1)

	66802	◎	価値システム講究第六	0-2-0	後	A	博士後期課程(1)
	66803	◎	価値システム講究第七	0-2-0	前	A	博士後期課程(2)
	66804	◎	価値システム講究第八	0-2-0	後	A	博士後期課程(2)
	66805	◎	価値システム講究第九	0-2-0	前	A	博士後期課程(3)
	66806	◎	価値システム講究第十	0-2-0	後	A	博士後期課程(3)

(注) 1)◎印を付してある授業科目は、必ず履修しておかなければならない授業科目で、備考欄の(1)、(2)などは履修年次を示す。

博士論文研究

博士論文研究では、問題解決力に加えて、問題設定能力を培い、さらに英語によるコミュニケーション力の向上を目指すことで、価値判断と意思決定の専門家・研究者を養成する。博士学位の取得に向けては、付図2の博士論文研究の流れに示すように、学位取得要件充足後、下読み会、論文発表会を経て、最終試験にいたる。



付図2 価値システム専攻博士課程における博士論文研究の流れ

〔教 授 要 目〕

66001

社会的合意形成の理論と技術(Theory and Technique of Social Consensus Building)

前学期 2－0－0　桑子 敏雄 教授

不特定多数の関係者による合意形成の理論と技術を学ぶ。紛争の防止・回避および発生してしまった紛争の解決・処理について，複雑な話し合いのプロセスの全体をプロジェクトとしてマネジメントするための理論について論じ，またワークショップ形式の授業によって技術を習得する。

66002

Advances in Affective Cognitive Science

偶数年度開講

前学期 2－0－0　徃住 彰文 教授

認知科学と感性科学の古典と最先端を対照させながら，その思考法を学ぶ。言語，思考，感情などの高次認知過程が本講義の対象である。

(This course will be taught in English)

66060

感性認知科学(Affective Cognitive Science)

奇数年度開講

後学期 2－0－0　徃住 彰文 教授

人間の高次認知過程(言語，思考，感情)と，美学(文学，詩学，音楽)的な高次感性過程が本講義の対象である。研究の最先端の動向をまとめ，展望する。

66041

ディジタル人文工学(Digital Humanities and Technology)

前学期 2－0－0　徃住 彰文 教授 ほか

人文学において最も基本的な対象であるテクストに対する，工学的分析の手法を学ぶ。テクストの電子的(ディジタル化した)表現法，計算的(プログラム言語による)操作法を習得し，テクストの大規模知識資源としての扱い方を概観する。

66078

美学（Aesthetics）

後学期　2-0-0　伊藤　亜紗　　准教授

サルバドール・ダリ、中西夏之、オノ・ヨーコなど特異な思考を展開したアーティストが書いた文章を読む。作品を　参照したり実験したりしながら、その思考を自分の頭と身体を使ってたどってみる。単なる作家研究ではなく、「作品とは何か」「批評とは何か」といった美学的問いをめぐって、作り手とともに考える授業である。

66005

比較価値論(Comparative Studies on Value Systems)

後学期 2－0－0　上田 紀行 教授

高度科学技術社会に生じる諸問題の根底には，多様な価値観の対立の問題がある。その対立のうち，主要なものを年度ごとに選び，それらの構造と論理を明らかにするとともに，対立の克服，来たるべき社会像について論ずる。

66007

社会システム論(Social Systems Sciences)

前学期　2－0－0　　今田　高俊　教授

第二次世界大戦後に構築されたシステム・パラダイム群と社会学の関係を考察し，社会システムの理論化のためのポイントを学ぶ。特に，みずからの手でみずからの構造を変える自己組織システムについて，自己創成(オートポイエシス:生物学)，ゆらぎが共鳴しあって新たな構造や秩序を形成する側面を理論化する協同現象論(シナジェティクス:物理学)，散逸構造論(熱力学)など，システム論の新しい展開を摂取して，従来の枠組みを超えた社会システム論を考察する。

66070

未来洞察ワークショップ(Workshop on Future Foresight)

前学期　1－0－1　　今田　高俊　教授　※栗田　恵吾　非常勤講師　※栗林　敦子　非常勤講師

20 世紀的な発想，生き方，システムの限界が指摘されている。資源・エネルギー・環境の危機。価値観の多様化と生活様式の個性化。グローバル化にともなう競争の激化と複雑化する社会問題。こうした中，21 世紀の産業社会のリーダーシップを担う人材を育成する上で，高まる不確実性や外部性を発想の源泉とするような未来洞察力を身につけ，主体的・自律的に新たな価値創造を行い，社会における持続可能な成長戦略を描けるようにすることが不可欠である。本科目では，こうした能力開発のための方法的，実践的なトレーニングを，ワークショップ方式で行う。

66063

組織行動論(Organizational Behavior)

平成 25 年度休講

後学期　2－0－0　　江川　　緑　准教授

組織行動論とは，「組織行動」すなわち組織における人間の行動をあつかう研究分野です。授業では，モティベーション，ワークストレス，キャリア，リーダーシップ，組織文化など，この分野の基礎知識を学び，組織における人間行動への理解を深めます。授業は，講義形式とセミナー形式を交えて展開する予定ですが，受講者の関心とレベルに即して弾力的に運営します。

66031

多文化共生社会論(Global knowledge and skills for diverse and sustainable society)

前学期　2－0－0　　江川　　緑　准教授

グローバル化の進展に伴い，ヒトの国際的移動はますます加速化し，多様な文化的背景を持つ人々との共生は，現代社会にとって避けて通ることの出来ない重要な課題となっています。本講義では，多様性・多文化の共生のために必要な基礎知識を，異文化コミュニケーション，多文化間メンタルヘルス，組織行動論などの分野から学際的に学習し，グローバル時代を生き抜くために必要な知識とスキルの修得をめざします。

66009

社会シミュレーション(Social Simulation)

前学期　2－0－0　　中丸　麻由子　准教授

社会を研究する手段として数理モデルやエージェントベースシミュレーションがある。仮定のシンプルなモデルでも，複雑であると思われている社会を的確に表現する場合もあり，社会の本質を見極める手段として非常に有用なツールである。この講義では代表的な社会に関するモデルを紹介しながら，演習も行いながらモデルの解析手法の基礎を講義する。解析手法として具体的には，微分方程式や差分方程式，偏微分方程式などの解析手法やコンピュータによる数値計算方法，エージェントベースシミュレーションモデルのプロ

グラミング手法について講義する。この講義を通して社会のモデル研究の面白さや難しさ，長所・短所を学んで欲しい。

66011

共生と紛争のシステム科学(Systems Science on symbiosis and confrontation)

前学期　2－0－0　　木嶋　恭一　教授

個人，組織，集団，あるいは国家などを自律的な意思決定主体として捉え，システム科学の視点から，それらが多様な価値観と決定行動原理に基づき相互作用する状況を多主体複雑系として定式化する。ついで，特に多主体間の折り合い・共生・紛争という側面を，数理的モデル・シミュレーションモデルから，バーバルモデルまで幅広い方法論を駆使して考察する。さらに，そのような分析を踏まえ，多主体の共生・共存(アコモデーション)を支援する方法論についても論述する。

なお，一定数以上の留学生の出席等，状況により英語で講義する可能性がある。

66058

サービス科学基礎論(Foundation of Service Science)

前学期　2－0－0　　木嶋　恭一　教授　ほか

「社会的サービス価値のデザイン・イノベーター人材育成プログラム」特別教育研究コースのコア科目であり，同コースを履修するすべての学生に受講を強く勧める。

本学教員と学外の実務家とのコラボレーションにより，(1)新しい学際領域サービス科学の意義・定義からその現在の位置まで，社会システム科学の視点から包括的に論じるとともに，(2)サービス科学を実際にインプリメントしている多方面の実務家からサービス科学の学問的および実践的な今をビビッドに紹介することを狙う。

66074

価値創造の最前線 (Frontier of Value Co-creation)

前学期　2－0－0　　木嶋　恭一　教授　ほか

各業界のトップとしてグローバルに活動する企業のマネジメント陣を講師に招き、多岐にわたる分野の異なるイノベーション経験を紹介しビジネスシーンの最前線に触れる。講義＋ワークショップの形式で進め、ワークショップでは、チームごとに新事業プランを立案し競う。

66069

ソリューション科学実践(Solutions Science in Practice)

前学期　1－1－0　　坂野　達郎　准教授　下田　隆二　教授　ほか

本講義は、技術に対して社会経済価値を与えるためのソリューションを提供できる人材の育成を目指す。ソリューション研究に従事し、社会・産業の課題に対応した研究開発を実践しつつある研究者・技術者、企業人、技術企画担当者等の実践的な活動状況の報告とこれを踏まえた討論を行い、課題対応型研究開発に対する理解を深める。また、これらの講義・討論への参加の後、グループ演習として「プロジェクト」の企画、発表を行う。

66059

コンテンツサービス創出論(Theory of Contents Service Creation)

後学期　2－0－0　　出口　　弘　教授　ほか

コンテンツ産業は日本のサービス産業の中で，高い国際競争力を持つ分野の一つである。講義の前半部では日本型コンテンツに特徴的な作り手と受け手の相互作用，メディア間の相互作用といった，日本型コンテンツに特徴的な創出プロセスに力点を置いてマーケットの構造を分析する。

この課程で，日本型コンテンツ産業の課題，コンテンツ産業のビジネスモデル，グローバル化の可能性といった論点について議論を行い，日本型コンテンツサービスを分析する際に必要となる考え方を提供したい。

66045

Effective Presentations in English(International Seminar on Decision Science and Technology)

後学期　1－1－0　　※大村　梓　非常勤講師

Effective Presentations in English:

This course offers an effective way of giving presentations in English with visual aids. Students are required to attend all classes and give two presentations in English. All texts are read, and discussion and presentations are conducted in English.

66071

災害ソリューション実践(Practical disaster solution)

前学期　0-2-0　坂野　達郎　准教授

本講義は、被災地に滞在して現地住民の人たちと交流することにより、現地の人たちが何を欲しているか、受講者それぞれが有する専門性をどのように復興に役立てることができるかを考える現場実践型授業である。今年度も、NTT ドコモ・モバイル社会研究所との連携により、被災地の人たちが短編ムービーを撮影するというワークショップへの支援を夏季休暇期間に岩手県大船渡市に１週間ほど滞在して行う予定。集中講義なので、スケジュール等の案内に注意すること。

66068

社会的ジレンマの研究(Research on Social Dilemma)

平成 25 年度休講

後学期　2－0－0　　谷口　尚子　准教授　ほか

経済学、社会学、政治学、心理学など、様々な領域で研究されている「社会的ジレンマ問題」は、学際的共同研究、マルチ・メソッド研究の手法を学ぶ上で格好の題材である。社会的ジレンマの実例は、環境問題、モラル問題、公共財問題など、実社会のあらゆる局面で看取される。また、信頼、協力、進化といった重要な抽象概念とも密接に関連している。本授業では、様々な実例・領域の社会的ジレンマ問題に対し、数理、計量、シミュレーション、実験など、多様な手法でアプローチする研究を紹介する。これを通じて、分野を超えた共同研究のあり方や複合的実証研究のあり方を学ぶ。

66073

現代政治分析(Political Analysis)

後学期　2－0－0　　谷口　尚子　准教授

以下の内容を通じて、政治学研究の方法を実践的に学ぶ。

＜扱うテーマ＞

○政治現象（選挙過程、立法過程、行政過程、政党システム、政治制度等）

○政治行動（政治心理、政治的態度、政治的価値観、投票行動、政治参加等）

＜方法論＞

○調査（国内社会調査、国際比較調査、インターネット調査等）

○実験（調査実験、実験室実験、フィールド実験等）

○統計分析

＜授業運営＞

○文献講読（内外の書籍、論文）

○実証分析のトレーニング

○参加者やゲストの研究発表・議論

66014

Global Environmental Governance(地球環境ガバナンス論)

前学期　2－0－0　　蟹江　憲史　准教授

気候変動やオゾン層の保護をはじめとする地球環境問題の解決のためには，環境ガバナンスにかかる様々な機能を，多様な行為主体やそのネットワークが適切な形で満たしていく必要がある。今日までの環境ガバナンスの経験から我々はどのような教訓を学び取ることが出来るのであろうか？本科目では，様々な地球環境ガバナンスのケーススタディをもとに，環境ガバナンスのあり方を議論していきたい。

In order to solve global environmental issues such as climate change and depletion of Ozone layer, various environmental governance functions need to be satisfied with multiple actors as well as their trans-boundary networks. What lessons can we learn from the past experience on environmental governance in this respect? Using case studies on variety of issues on environmental governance, this course provides students with insights on the reality of environmental governance, and discuss lessons learnt for the future institutions for the earth.

66037

企業経営と情報(Corporate Management and Information)

前学期　2－0－0　　潮見　　登　教授

企業においては，ビジョン・戦略に始まって商品開発・組織人事など具体的なものに至るまで，日々様々な意思決定が行われている。そこで重要な役割を果たすのが「情報」である。本講義では，企業がどのように情報を収集・分析し，それを戦略立案や生産・販売活動に結びつけているかについて，理解を深めることを狙いとしている。特に生活者を対象とするマーケティング分野や，企業経営とIT（情報技術）との関わりに重点を置き，極力，現実の企業の姿を把握してもらう。

66072

日本経済論(Japanese Economy)

後学期　2－0－0　　櫨　浩一　教授

経済学の基本的な考え方を使って、日本経済に関する最近のトピックスを順次取り上げる。日本経済の現状を理解し、今後の変化の方向やあるべき姿、行うべき政策を考察する。分析に使われる理論については、その都度説明するが、証明することよりは、それが現実の分析に実際にどう使われるのかに重点を置いて講義を進める。それぞれの問題について講義で提示する分析や考え方について、受講者とディスカッションを行うことで、問題に対する理解を深める。

毎回一つのテーマについて分析を説明し、受講者とディスカッションする。そこで使われる経済理論についてはその都度簡単な説明を行う。

66017

地方財政論(Local Government Finance)

後学期　2－0－0　　飛田　博史　准教授

地方財政制度の仕組みと現状およびこれからの制度のあり方について，理論と実証を交えて講義を進めていく。後学期の前半では地方財政の基本的仕組み，最新の動向，今後の制度のあり方など理論や制度の解説を中心に講義を行い，後半では各受講者によるレポート作成へ向けて、それぞれの関心事に引きつけた講義やディスカッション、レポートのアドバイスなどを行う予定である。

66077

日本経済の統計・モデル・政策論（Japanese Economy: Statistics,Model and Policy）

後学期　2－0－0　出口　弘　教授　ほか

この講義は国の GDP など国民経済計算やマクロ経済モデルの策定や、景気動向などの調査に実際に携わっている内閣府の官庁エコノミストの方々による、日本経済の統計・モデル・政策に関するオムニバス形式の講義です。景気指標や経済統計の作成から経済モデルの策定、更に制度形成まで、聞く機会がめったにない日本の経済統計、経済モデルを策定する現場の知を知り学ぶ事のできる貴重な機会です。

66019

民事紛争処理と手続法（Dispute Resolution and Procedure Law: Civil）

偶数年度開講

前学期　2－0－0　　金子　宏直　准教授

多様化する民事の紛争処理について，民事訴訟法等の手続法の理論がどのように役立つか，さらに他の法規範との関係をどのように捉えればよいのか日本法と外国法の比較法的考察を通じて学習する。

各開講年度ごとに，集団訴訟，企業の不適切会計問題，倒産問題等の現代の具体的な民事紛争にかかわるテーマを取り上げる。

66040

情報マネジメント法学（Information Management Law）

奇数年度開講

前学期　2－0－0　　金子　宏直　准教授

企業情報や個人情報などの各種情報の保護をめぐる法制度ならびに法律問題について最新事情を検討する。日本語および英語の資料を使用する。

66030

Social Systems Modeling（社会システムモデリング）

Fall Semester　2－0－0　　Professor INOHARA, Takehiro（後学期　2－0－0　　猪原　健弘　教授）

Mathematical modeling methods and mathematical analysis methods for social systems are presented through lectures and exercises. This lecture gives definitions, examples and analysis methods of games in normal form, games in extensive form, option forms, graph models, simple games, games in characteristic function form, and so on, as models for analyzing decision making situations. Methods of coalition formation analysis and relation analysis are also introduced.

Students are required to prepare and submit three reports: a report on the background and the detail of a real-world decision making situation (Background Report), that on the model of the situation (Model Report) and that on the analysis of the situation (Analysis Report). Also, they are required to prepare and make a presentation based on these reports in the end of the term.

This lecture aims to cultivate the students' ability of selecting an appropriate model for analyzing a focal decision making situation, that of describing a real-world decision making situation by a model, that of analyzing the model and taking out some insights on the situation from the results of the analysis and that of deriver the results of the analysis to others concisely.

社会システムの数理モデル化の手法とモデル分析手法を，講義と演習を通じて学ぶ。特に，標準形ゲーム，展開形ゲーム，オプション・フォーム，グラフ・モデル，シンプル・ゲーム，特性関数形ゲームなどを，その例と分析方法とともに紹介する。また，提携分析や関係分析の手法も紹介する。

扱いたい意思決定状況に応じて分析のためのモデルを選択する能力，現実の状況をモデルとして表現する能力，モデルを分析し現実への示唆を導出する能力，分析結果を簡潔に他者に伝える能力を養うことを目的とする。

66061

日中比較芸術論(Comparative Art Studies: Japan and China)

前学期　2－0－0　　戦　　暁梅　准教授

比較文化の視点から，美術における日中関係の諸相(影響，交流，異同)を概観する。授業では，代表的な美術品またはそれにかかわる諸事象を，日中文化交流史の背景のもとで紹介し，分析する。「美術」という媒介を通して，日中の文化全般に視野を広げ，よりよく研究対象を捉えるための柔軟な思考，複合的な視点等を養成することを目的とする。

66062

近代日中文人画論(Early Modern Japanese and Chinese Literati Painting)

平成 25 年度休講

後学期　2－0－0　　戦　　暁梅　准教授

日中美術史に共通する一分野であり，かつて江戸時代の日本では大きな隆盛を誇っていた文人画(南画)が，西洋文化が押し寄せる近代に入って，日本と中国においてそれぞれ異なる道を歩み始めた。この興味深い事象について，日中比較文化という視点から検討する。授業ではまず中国絵画や文人画を理解するための基本知識を紹介し，代表的な画家とその作品を概観した上で，近代日中文人画の変遷にかかわる諸要素を具体的に読み解いていく。「文人画」という媒介を通して，東洋美術を「読む」方法を学び，日中の文化理解を深めることを目的とする。

66026

比較文化史概論(Comparative Culture Study)

西暦奇数年度開講

後学期　2－0－0　　劉　　岸偉　教授

本講義は中国及び日本の近代文化の発生と交流の諸相を考察する。二十世紀初頭の中国は，伝統社会の崩壊に直面し，文化の転型を迫られていた。混沌とした中国社会の各側面を，特に日本との関わりを視野に入れて，数人の作家を中心にこの時期に書かれた諸種のテクストを通して読み解く。前期では，比較文化史の視点から，日本近代文化の生成を概観し，後期では，人物，テクスト往還の諸相を考察する。

66027

日中近代文化交渉論(Intercultural Communication)

西暦偶数年度開講

後学期　2－0－0　　劉　　岸偉　教授

前期と同じ

66046

A Comparative Study of Modern Japanese Culture(近代日本文化の比較研究)

後学期　2－0－0　　L．モートン　教授

近代日本文化あるいは近代日本人の感受性を形作る基本的なテキストの英訳を学生に紹介し，理解してもらい，論じるのがねらいである。また，個々の学生の読解力を向上させるとともに，英語でそのテキストに関する理解を表現することで，それぞれの表現力，文章力を向上させる。コース担当者が日本分化を研究する西洋人であるという立場を利用して，テキストの西洋におけるインパクトを論じ，西洋の思想，文化および価値観を，比較文化的立場からのテキスト読解を進める。

The chief objective of the course is to introduce students to texts fundamental to the construction of modern Japanese culture, and by reading examining and discussing these texts in class (in English) provide students with a introduction to modern Japanese culture and the modern Japanese sensibility. Another objective is to enhance students' ability to express their understanding of these texts through compulsory essays in English.

66050

公共管理特論（Special Topics of Public Management）

前学期　2－0－0　　○中川　正宣　教授・劉　　岸偉　教授

田中　義敏　教授・橋爪　大三郎　教授

本科目は，東工大・清華大大学院合同プログラムの学生に対して，東工大の教員と中国・清華大学教員が共同して，清華大学で開講するものであり，公共管理に関わる分野の学問的デイシプリンと，次のような公共管理に関する諸問題を論ずるものである。

(1)認知心理学概論
(2)学習過程の数理モデル論
(3)発見的問題解決と意思決定
(4)比較文学理論概説
(5)作家のエクリチュールとテクスト解説
(6)比較文化史概論
(7)技術経営概論
(8)企業経営と知的財産権
(9)イノベーションと産官学連携

評価方法は，出席時における評価と試験による。

66033

価値システム学入門（Introduction to Value and Decision Science）

前学期　2－0－0　　桑子　敏雄　教授　ほか

価値システム専攻は，「価値判断と意思決定の科学」をめざす世界でもきわめてユニークな大学院専攻である。本講義では，この新しい科学の理念，研究方法，予想される研究成果などについて論じる。形式は，価値システム専攻に所属する教員がリレー式講義で行う。「価値システム学」の入門となる講義である。

66711，66712，66713，66714

価値システム討議・実験第一	前学期	0－1－1	各教員
同　第二	後学期	0－1－1	
同　第三	前学期	0－1－1	
同　第四	後学期	0－1－1	

（Discussion Program in Value and Decision Science　Ⅰ-Ⅳ）

大学院生が全員参加する。取り上げるテーマは深い問題意識と広い視野を学生が身に付けるために，先端的あるいは萌芽的もしくは時宜的な分野，または，学際的な分野に関する諸問題とする。また，実験科目として，調査実習，シミュレーション実験，フィールドワークなど研究分野に合ったものを実施する。修士課程における必修科目であり，第一～第四の4つのうち最低3つをとらなければならない。ただし，留学や休学等，特別な事情がない限り，4月入学の場合には第一，二，三の順に，10 月入学の場合には第二，一，四の順に履修すること。

66721，66722，66723，66724

価値システム特別演習第一	前学期	0－1－0	各教員
同　第二	後学期	0－1－0	
同　第三	前学期	0－1－0	
同　第四	後学期	0－1－0	

（Special Seminar in Value and Decision Science　Ⅰ-Ⅳ）

価値システム専攻に所属する学生と教員とが共有すべき広がりと深さを持った知識をともに学習する演習である。哲学・数理・情報・コミュニケーションの4系統を中心に，セミナー形式で実施する。修士課程における必修科目であり，第一～第四のうち最低2つをとらなければならない。

66051

コミュニケーション演習（Communication Techniques）

前学期　0－2－0　　猪原　健弘　教授

学習・研究を進めていく上での種々のリテラシーについて学ぶ。特に，プレゼンテーション機材の使い方，学習・研究情報の収集の仕方，効率的な議論の方法，プレゼンテーションの技術などを習得する。

＊特別教育研究コース履修生のみ履修可（価値システム専攻の学生は特別演習として履修可，詳しくは担当教員に問い合わせること）

66052

基礎数学演習（Basics in Mathematics）

前学期　0－2－0　　※喜多村　正仁　非常勤講師

記号論理学，集合論，代数系，測度論などの基礎事項を，演習を通じて身につける。

＊特別教育研究コース履修生のみ履修可（価値システム専攻の学生は特別演習として履修可，詳しくは担当教員に問い合わせること）

66053

紛争処理演習（Dispute Resolution）

平成 25 年度休講

前学期　0－2－0　　金子　宏直　准教授・猪原　健弘　教授

紛争処理に関する文献を購読し，紛争処理の実際について理解を深める。

＊特別教育研究コース履修生のみ履修可（価値システム専攻の学生は特別演習として履修可，詳しくは担当教員に問い合わせること）

国際ネットワーク形成演習第一	前学期	0－2－0	猪原　健弘	**66054**
同　第二	後学期	0－2－0	准教授ほか	**66055**

（International Research Internship　Ⅰ-Ⅱ）

海外拠点にて学習・研究を行い，国際的研究者ネットワークの形成をはかる。

＊特別教育研究コース履修生のみ履修可(詳しくは担当教員に問い合わせること)

国際発表実践演習第一	前学期　0－2－0	**猪原　健弘**	**66056**
同　　第二	後学期　0－2－0	**准教授ほか**	**66057**

(International Research Presentation　Ⅰ-Ⅱ)

国際研究セミナーへの参加，研究発表を行うことにより，国際的研究交流をはかる。

＊特別教育研究コース履修生のみ履修可(詳しくは担当教員に問い合わせること)

66064

The Philosophy and Practice of Collaborative Deliberation

(Special Lecture on Value, Decision, and Culture　Ⅰ)

後学期　2－0－0　　※豊田　光世　非常勤講師

The Philosophy and Practice of Collaborative Deliberation

This course aims at deepening students' understanding of the meanings of collaborative deliberation through their actual engagement in this thinking process. Students will experience the value of safety in a communicative space, and learn key ideas and strategies that are necessary for sharing and formulating ideas with people who have different concerns and backgrounds. They will further consider how collaborative deliberation can be exercised when dealing with actual problems in a democratic society. Various cases of collaborative deliberation, particularly in the framework of environmental projects, will be introduced during the course.

(This course will be taught in English)

66066

International Management(Special Lecture on Value, Decision, and Culture　Ⅱ)

前学期　2－0－0　　※R. マニエ・渡邊　非常勤講師

This course focuses on the challenges and opportunities associated with organizational management and business strategy in the global environment. Topics covered include globalization, the international environment, ethics and social responsibility, the meanings and dimensions of culture, managing across culture, organizational culture and diversity, cross-culture communication and negotiation, strategy formulation and implementation, entry strategies and organizational structures, managing political risk, government relations, and alliances, management decision and control, motivation across cultures, leadership across cultures, and human resource across cultures. This class is aimed at anyone who wants to understand the people, culture, geography, and politics of international business.

(This course will be taught in English)

66065

Values in Comparative Culture(Special Lecture on Value, Decision, and Culture　Ⅲ)

後学期　2－0－0　　※大村　梓　非常勤講師

Values in Comparative Culture:

This course offers a comparative study on modern Japanese culture (from the Meiji Restoration to the Second World War) from various perspectives, particularly focusing on the influence of Western culture. Students are required to attend all classes and submit two essays in English. All texts are read and discussion is conducted in English.

66067

Special Lecture on Value, Decision, and Culture Ⅳ

(Special Lecture on Value, Decision, and Culture Ⅳ)

前学期 2－0－0　未　　定

価値判断・意思決定・文化に関する講義を，外部講師を招いて英語にて行う。

(This course will be taught in English)

66075, 66076

価値システム異分野特定課題研究スキルA（前学期），B（後学期）

(Specific Interdisciplinary Subject in Value and Decision Science)

前期　0-2-0　　蟹江憲史

後期　0-2-0　　蟹江憲史

環境問題とエネルギー問題の関連する課題について、政策的問題発見から問題解決へ至るまでの政策科学的アプローチを自学自習で習得するための指導と演習を行う。

This course focuses on the nexus between environment and energy problems utilizing a self-study approach on the subjects. The exercise/drill course helps students to acquire sufficient problem-finding and -solving skills to conduct research.

価値システム・インターンシップ第一	前学期	0－2－0	各 教 員	**66043**
同　　第二	後学期	0－2－0		**66044**

(Value and Decision through Internship Ⅰ-Ⅱ)

専攻の理念である学問と実践の融合を，将来のキャリアと関連した就業体験を通じてめざすのが，価値システムにおけるインターンシップの位置づけである。企業と連携をとりながら，インターンシップ就業の設計を行い，価値システム専攻の科目として認定する。

価値システム講究第一	前学期	2 単位		**66701**
同　　第二	後学期	2 単位	指導教員	**66702**
同　　第三	前学期	2 単位		**66703**
同　　第四	後学期	2 単位		**66704**

(Colloquium in Value and Decision Science Ⅰ-Ⅳ)

学生の希望と指導教員の助言によって研究テーマを設定し，それに関連した文献の輪読・実験・調査を通じて研究事項の討議を行う。修士課程における必修であり，順を追って履修しなければならない。

価値システム講究第五	前学期	2 単位		**66801**
同　　第六	後学期	2 単位		**66802**
同　　第七	前学期	2 単位	指導教員	**66803**
同　　第八	後学期	2 単位		**66804**
同　　第九	前学期	2 単位		**66805**
同　　第十	後学期	2 単位		**66806**

(Colloquium in Value and Decision Science Ⅴ-Ⅹ)

博士後期課程における必修科目であり，博士後期課程相当の高度の輪講，論文指導，などからなる。